

## コロナと人権

青垣中学校 一年 足立 葵羽

中学生になって初めて、人権作文を書くことになり、自分なりに人権とは、何なのか考えてみました。「人権」とは、「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を、追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、誰にとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって、守られているものだとは私たちは、考えなければいけません。

なぜ僕が、コロナと人権という題名で、人権作文を書こうと思ったかという、この夏自分もふくめ、家族がコロナに感染したからです。コロナになったことで、今までわからなかった感染した人の気持ちが、分かったからです。そして、その後ろでは日々仕事を頑張っておられる医療従事者の方々と、コロナ関係にたずさわっておられる方々の、存在があると分かりました。今から三年前の冬にコロナが、世界的に猛威を振るって大流行しました。僕が小学四年生の冬だったと思います。その時、この丹波でも、初感染者が出てみんながその人に対して、あるはずのないうわさ話をしていたのを、思い出しました。これも立派な人権侵害だと僕は、思います。それから、人の目はコロナが敵ではなく、コロナになった人間を敵に見るようになってしまいました。コロナ病棟で働いている医療従事者の方々に対して、差別的な発言をしたりする人もいたと聞きました。今現在は、第七波のコロナの渦中にあります。

この前、新聞で医療従事者からの、メッセージの記事を読みました。患者さんに向けたメッセージで、「怒らないでください、診察の順番まで待ってください」と書いてありました。これは、どういう意味なのか自分の経験もふまえてみました。熱が出たりしてしんどくて不安になった時誰もが我先に診察してほしいと不安になり、そのイライラや怒りの矛先が、看護師さんや病院のスタッフの方々に向いているのだと思いました。実際に、僕も高熱が出て頭が痛く、病院を受診した時に「早く診てほしい、なんでこんなに遅いの、いつまで待つのか？」と言ってしまい、母から注意を受けたからです。文句より先に感謝の気持ちを言わないといけないのに、気持ちに余裕がなくなると人は、思いやりが持たなくなり、相手に対して攻撃的な態度を取ったり、言葉を発してしまったりするからです。

ここで忘れてはいけないのが人権です。最初に書いた日常の思いやりの心によって守られているかどうか私たちは、もう一度、考えなければいけません。憎むのは、人ではなくウイルスです。そして、コロナ差別がなくなるように、一人一人が相手に思いやりの気持ちを持って接することだと思っています。

そして誰にたいしても、感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいと思

ました。

この気持ちを周りのみんなにも、伝えていきたいと思いました。そうしていくことがコロナをはじめとする差別や偏見をなくしていく一歩になると僕は、思っています。